

3 多文化共生社会

～行政レベル、市民レベルともに世界に開かれたまち

<基本計画の目標>

国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを進めます。
市民・市民団体の国際交流・協力活動を支援します。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
通訳ボランティア の派遣回数(+)	外国語通訳ボランティアの年間 派遣回数	4 件	1 件	0 件	0 件	0 件	5 件	6 件
通訳ボランティア の登録者数(+)	外国語通訳ボランティアの登録 者数の合計	138 人	143 人	145 人	149 人	149 人	140 人	143 人
多文化共生社会 の浸透率(+)	日常的に外国人との交流がある 市民の割合	20.1 %	17.8 %	19.4 %	17.6 %	17.9 %	22 %	24 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状 況について、市民が実感している 割合	35.4 %	30.6 %	31.5 %	37.7 %	60.4 %	37 %	39 %

<これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・生涯学習推進担当

<昨年度からの課題>

- ・外国籍市民の意識調査を行い、そこから対策を考え事業を推進すべきである。
- ・案内板にローマ字標記を多くすべきである。
- ・通訳ボランティアの利用率が低い状況が続いている。有効活用に向けて具体的方策を示されたい。

<進捗>

- ・経営企画課が例年実施している市民意識調査に外国籍市民向けの質問項目の掲載について検討したが、言語等の問題から実現に至らなかった。

<課題>

- ・外国籍市民のニーズの把握が求められる。
- ・外国籍市民が地域社会で孤立しないよう、言語のサポートや触れあいの場の充実が求められる。

担当部の評価

○

<今後の展開(取組方針)>

・生涯学習推進担当

- ・外国籍市民の意識調査については、外国人登録申請等への来庁時等の調査を通じて調査協力を得るなど、経費がかからず、幅広く意見聴取できる方法で実施したい。

- ・観光基本計画とも連動性を持たせ、ローマ字標記を含む誰にでも歩きやすいまちづくりを進めていきたい。

- ・外国語を含むホームページの掲載やチラシの配置等により、通訳ボランティアの周知を図りたい。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

・案内板等の整備は昨年の課題であったが、少しずつではあるが実際案内板を目にする機会が増えたので今後の整備も期待すれば評価できるであろう。



課題・提言

- ・外国人の実態調査が必要であることは認識していただいているようだが、外国人登録申請時のアンケートでは鎌倉で生活している外国人の意識は捉えられないと思う。職員によるヒアリング調査等費用のかからない方策を再度検討していただきたい。
- ・通訳ボランティア年間派遣回数は多文化共生の指標として、あまり意味がないのではないか。年間利用回数が数回、もしくは0回であり、この事業そのものの意義について再検討したほうがよい。通訳ボランティアは、市民向けの外国語講座の講師としてスキルを生かしていただいているかどうか。
- ・平成20年度以降の市民評価委員会で指摘している外国籍市民意識調査の検討がなされたことは評価できるが、実施に至っていない。外国籍市民の回答者の量を確保するのは難しいと思われるので、まずは少人数（5人程度）のグループインタビュー等定性調査を実施し、実態の把握が出来るとうい。
- ・例年実施している市民意識調査に「外国籍市民向けの質問項目の掲載について検討したが、言語等の問題から実現に至らなかった。」とあるが、このような時には通訳ボランティアの方々の協力は得られないか？
- ・外国籍市民の意識調査の実施を検討したが、言語等の問題から実現に至らなかった、と記述されているが、今後はこのような分野においても通訳ボランティアの協力・活用を図れないか。